

# 科学技術の潮流

JST 研究開発戦略センター

⑧

## 上昇2°C以内

学品などの生産システムを

「脱炭素」 「炭素循環」

「電気のゼロエミッション化」と「CCU」

最適化が重要

「炭素循環」 「炭素循環」

「電気のゼロエミッション化」と「CCU」

2015年に採択された「パリ協定」の参加国は、産業革命後の気温上昇を2度C以内で抑えることを目指す。この対応には、C目標の達成には、省エネルギーの徹底だけでなく、大気中の二酸化炭素(CO<sub>2</sub>)を増加させないためのエネルギーシステムの大転換が必要となる。

# エネルギーシステム 正味ゼロエミッション化

ここでエネルギーシステムとは、電気や燃料などのエネルギー源の製造・配送・利用のための装置・機器・インフラのほか、それらの運用技術、さらに化

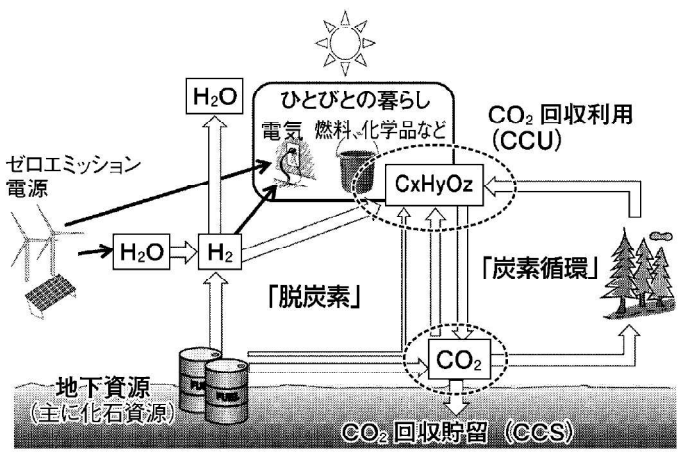


科学技術振興機構(JST)研究開発戦略センター  
フェロー(環境・エネルギーユニット)

尾山 宏次

東京大学大学院工学系研究科修士課程修了。石油会社で主に自動車燃料品質などの研究開発に従事。14年より現職。環境・エネルギー分野の研究開発戦略立案を担当。博士(工学)。

## エネルギーシステムの正味ゼロエミッション化



発電、風力発電、地熱になる。CCU関連技術は発展途上なものが多く、今後の研究開発が特に期待される。またCCUについては「電気のゼロエミッション化」と「CCU」の技術群は、エネルギーシステム内で相互に関連しあうため、未来の不確実性を考慮しつつ、システム全体を見据えた視点が必要になる。我が国における将来を見据えたビジョンは、各国・地域でさまざまな特性に依存し、研究開発の推進を促す必要がある。そのためには、我が国における将来を見据えたビジョンは、各国・地域でさまざまな特性に依存し、研究開発の推進を促す必要がある。そのためには、我が国における将来を見据えたビジョンは、各国・地域でさまざまな特性に依存し、研究開発の推進を促す必要がある。

(金曜日に掲載)